

# **FY2020（2021年3月期） 決算説明会**

**2021年5月12日**

**株式会社 島津製作所**

**代表取締役社長 上田輝久**

# 目次

## ① FY2020通期決算 概要

## ② FY2020通期決算 セグメント別業績

## ③ FY2021 予想

# 通期業績サマリー



## 増収増益

売上・利益ともに過去最高を更新

- ・売上・営業利益・経常利益・当期純利益とも過去最高を更新、営業利益率を含む全利益率も過去最高を更新
- ・計測と産業が増収増益で全体を牽引、一方、医用は減収増益、航空は減収減益でコロナ禍の影響大
- ・主力の計測は売上・営業利益ともに過去最高、医用は営業利益が過去最高、産機は売上が過去最高

## 感染症プロジェクトの推進

- ・新型コロナウイルス検出試薬キット、全自動PCR検査装置、肺炎検査の回診用装置が業績に大きく貢献
- ・ウイルスの迅速診断、重症化予測、感染拡大防止のための共同研究を国内外で推進
- ・LC、MSは感染症研究でも増加

## 海外で増収 日本は下期増収

- ・海外は中国、欧州、その他アジアで増収
- ・特に、中国の売上は前年比+19%の728億円となり、コロナ前のFY2018（売上719億円）まで回復
- ・日本は前年比▲2%の1,934億円となったが、下期は補正予算やコロナウイルス関連により+6%の増収

計測重点機種の上は過去最高  
産業のTMPの売上も過去最高  
医用の回診用装置の売上も過去最高

- ・計測重点機種（LC・MS・GC）は前年比+7%の1,356億円、3機種とも増収増益で売上は過去最高
- ・産業のTMPは5G・データセンター向け半導体需要増で前年比+22%の208億円となり過去最高を更新
- ・医用の回診用装置も肺炎検査目的で、国内外で伸長、過去最高を更新

# 損益計算書

- 売上高 : 3,935億円 (前年比 : +81億円、+2%)
- 営業利益 : 497億円 (前年比 : +79億円、+19%)
- 営業利益率 : 12.6% (前年比 : +1.8pt)

**売上高・営業利益・営業利益率  
全てで過去最高を更新**

	単位：億円	通期		前年比	
		FY2020	FY2019	差額	増減率
業績	売上高	3,935	3,854	+81	+2%
	営業利益	497	418	+79	+19%
	営業利益率	12.6%	10.9%	+1.8pt	-
	経常利益	484	427	+57	+13%
	親会社株主に帰属する当期純利益	361	318	+43	+14%
為替	平均レート：米ドル (円)	106.1	108.8	▲2.7	▲2%
	ユーロ (円)	123.8	120.9	+2.9	+2%
主要投資	研究開発費	157	169	▲12	
	設備投資額	145	177	▲32	
	減価償却費	155	133	+22	

## 為替影響

売上高 : ▲28億円  
営業利益 : ▲10億円

## 為替感応度

	売上高	営業利益
USD	12億円	4億円
EUR	2億円	0.7億円

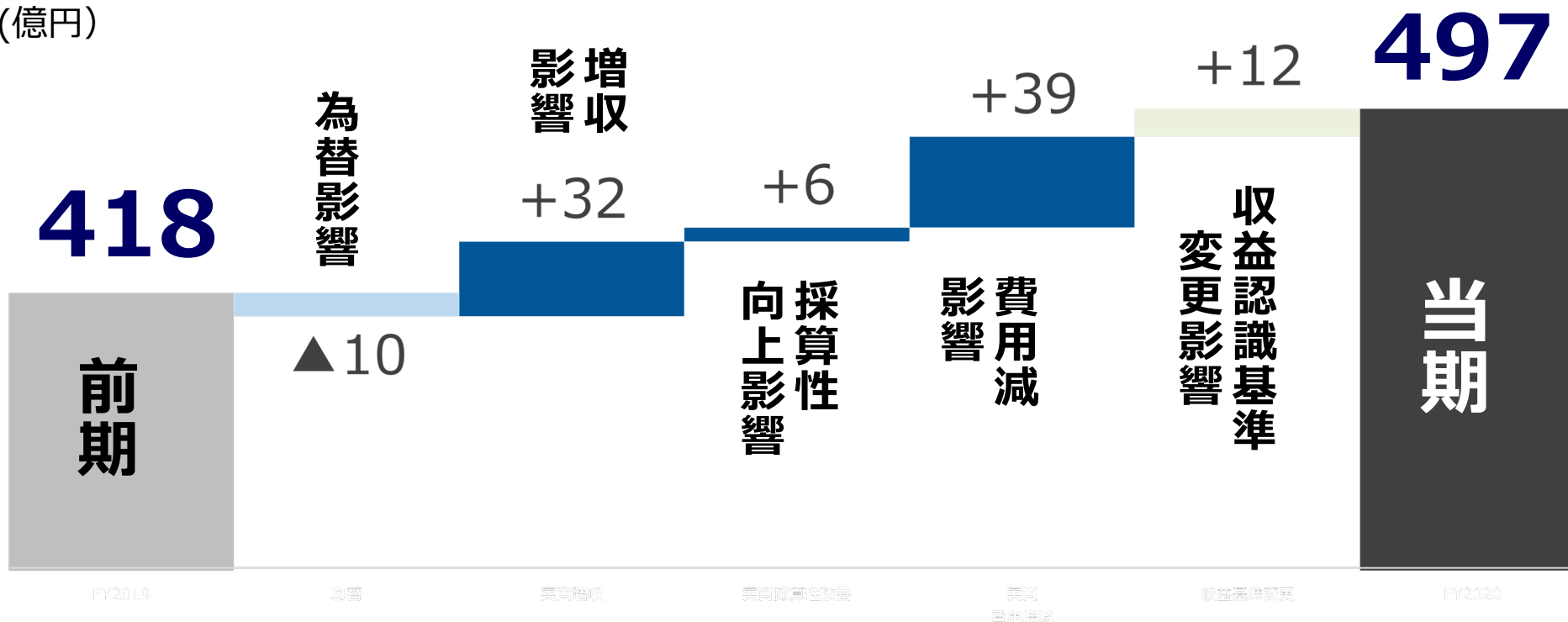
〈会計基準変更による影響〉

- 売上基準を出荷基準から据付完了基準に変更  
影響額：売上高 +29億円  
営業利益 +12億円
- リース基準の変更 (賃借料→減価償却費)  
影響額：減価償却費 +18億円

# 営業利益増減要因

- ・ 為替影響 : ▲ 10億円 (前年比、米ドルは2%円高、ユーロは2%円安)
- ・ 増収影響 : + 32億円
- ・ 採算性向上 : + 6億円 (セグメントミックスの改善による採算性向上など)
- ・ 費用減 : + 39億円 (経費削減の推進など)
- ・ 収益認識基準変更 : + 12億円

(億円)



# セグメント別損益

- ・計測： **増収増益** ■ 売上高、営業利益・営業利益率いずれも**過去最高を更新**  
重点機種は3機種とも増収となり、その他機種は、新型コロナ関連製品が貢献
- ・医用： **減収増益** ■ 肺炎検査用の回診用X線撮影装置は増加したが、医療機関の経営悪化により減収  
営業利益は経費削減や製品ミックス改善で**過去最高を更新**
- ・産業： **増収増益** ■ **過去最高売上を更新したTMP**が牽引
- ・航空： **減収減益** ■ 民間航空機の減産が大きく影響したが、経費削減を徹底し黒字を確保

単位: 億円	売上				営業利益				営業利益率		
	FY2020	FY2019	前年比		FY2020	FY2019	前年比		FY2020	FY2019	前年比 増減
			差額	増減率			差額	増減率			
計測	2,486	2,362	+123	+5.2%	425	358	+67	+19%	17.1%	15.1%	+2.0pt
医用	669	702	▲33	▲4.7%	44	32	+12	+37%	6.5%	4.5%	+2.0pt
産業	451	430	+21	+4.8%	41	37	+5	+12%	9.1%	8.5%	+0.6pt
航空	286	300	▲15	▲4.9%	1	8	▲7	▲92%	0.2%	2.6%	▲2.4pt
その他	44	60	▲16	▲26.3%	10	12	▲2	▲18%	16.2%	15.4%	+0.8pt
調整額					▲23	▲28	+5	-			
合計	3,935	3,854	+81	+2%	497	418	+79	+19%	12.6%	10.9%	+1.8pt

\* 売上は外部売上 営業利益率は営業利益/(外部+内部)で算出

# 目次

① FY2020通期決算 概要

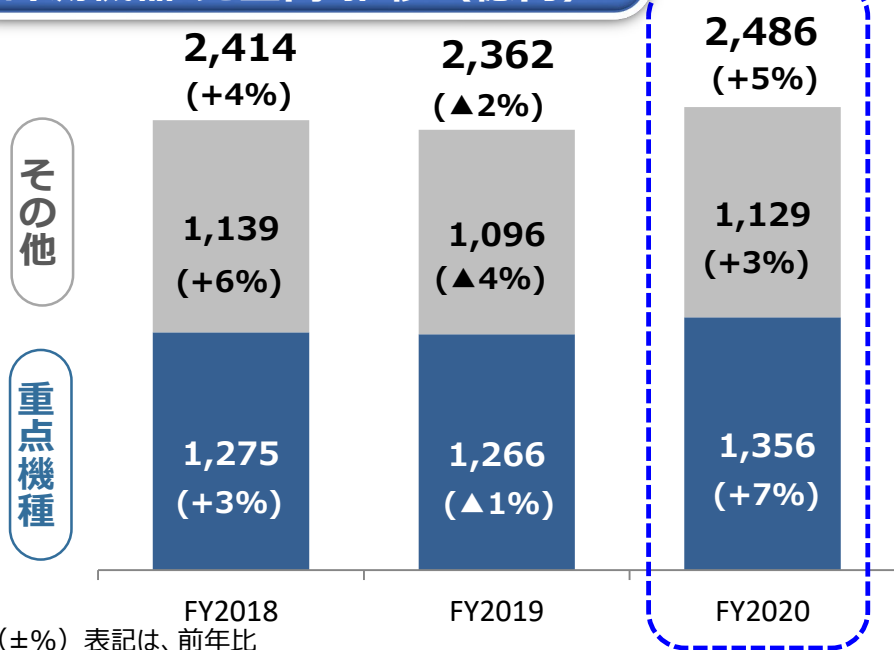
② **FY2020通期決算 セグメント別業績**

③ FY2021 予想

# 計測機器/機種別売上高

- ・重点機種 :1,356億円(前年比 : +90億円、+7%)  
LCは医薬向け、MSは医薬・臨床・大学向け、GCは衛生管理分野向けで増加
- ・その他 :1,129億円(前年比 : +33億円、+3%)  
新型コロナ関連(検出試薬キット、全自動PCR検査装置)が貢献  
製造業向けの試験機・非破壊検査は大幅減
- ・アフターマーケット(AM) :842億円(前年比 : +79億円、+10%) AM比率34%(前年比 +2pt)  
検出試薬キットが増加

## 計測機器 売上高 推移 (億円)



※ (±%) 表記は、前年比

## 計測機器製品

その他



新型コロナウイルス  
検出試薬キット



全自動PCR検査装置  
AutoAmp



水質分析計  
TOC-1000e



走査型プローブ顕微鏡  
SPM-Nanoa

重点機種



液体クロマトグラフ  
i-Series



液体クロマトグラフ  
Nexeraシリーズ



液体クロマトグラフ  
質量分析計  
LCMS-8060NX



ガスクロマトグラフ  
GC-2030



# 計測機器/地域別売上高

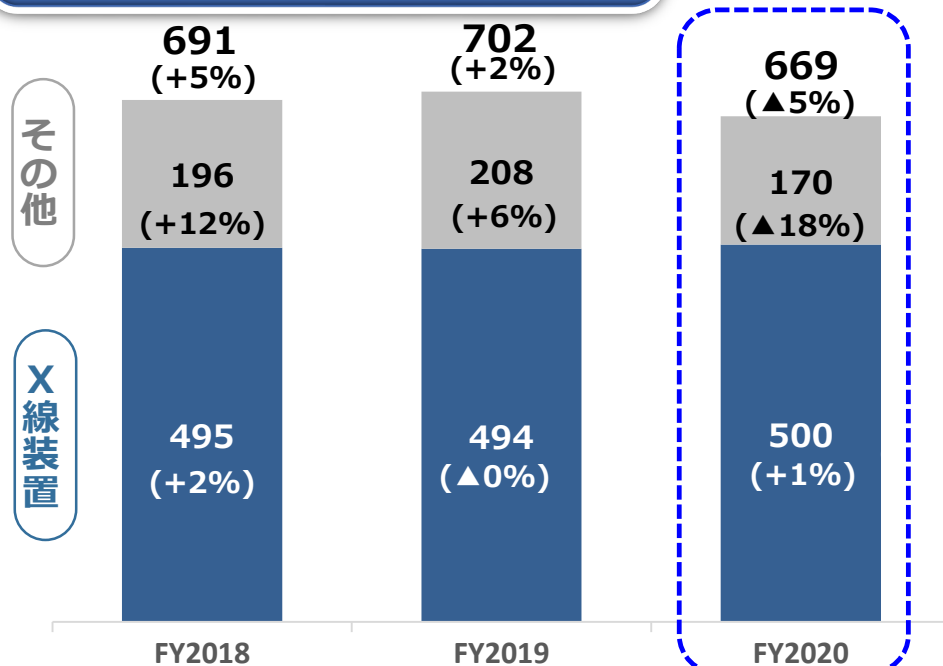
- ・日本 :+3% 新型コロナウイルス検出試薬キット、全自動PCR検査装置が貢献  
補正予算需要により大学・官公庁向け増加  
自動車、鉄鋼向けの試験機・非破壊検査は設備投資減の影響により大きく減少
- ・海外 :+7% 中国が回復。欧州はヘルスケア向けが伸長。北米は中小ラボ投資減速  
その他アジアは官公庁需要減少影響を受ける
- ・海外売上高比率:58% (前同比 +1pt)

億円	FY2020	FY2019	増減額	増減率	概況
日本	1,042	1,008	+34	+3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス検出試薬キット、全自動PCR検査装置が貢献</li> <li>・補正予算需要を取り込み大学を中心に質量分析計が増加</li> <li>・設備投資減少により、自動車・鉄鋼向けの試験機・非破壊検査が大幅減少</li> </ul>
海外	1,444	1,354	+90	+7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国が回復、欧州増収</li> <li>・北米・その他アジアは微減</li> </ul>
北米	260	262	▲3	▲1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関の衛生管理の高まりにより院内の微生物同定向けにMALDI-MSが好調に推移</li> <li>・中小ラボ投資減速により機能性食品向け分析需要停滞</li> </ul>
欧州	256	247	+9	+4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品向けに液体クロマトグラフが増加、臨床向けに質量分析計増加</li> <li>・国別では経済対策による需要喚起によりドイツが貢献</li> </ul>
中国	576	479	+96	+20%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「薬典改訂」需要及び食品安全需要の拡大により、液体クロマトグラフ、質量分析計増加</li> <li>・製造業の需要回復により、その他機種も増加</li> </ul>
その他 アジア	268	268	▲0	▲0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インドでの医薬品原料自国生産強化策により、製薬での設備投資が回復基調</li> <li>・予算がコロナ対策に重点的に配分されたことや入札の延期などで官公庁需要減少</li> </ul>

# 医用機器/機種別売上高

- ・X線装置** :500億円(前年比 : +6億円、+1%)  
 回診用X線撮影装置が大幅増となった一方、医療機関の収益悪化などにより血管撮影システム・X線TVシステムは減少  
 地域別では海外主要地域で回診用X線装置が増加。日本は病院の設備投資遅延・凍結により減少\*
- ・その他** :170億円(前年比 : ▲38億円、▲18%)
- ・アフターマーケット** :219億円(前年比 : +6億円、+3%) AM比率 33%(前年比 +2pt)  
 保守サービスが堅調に推移

## 医用機器 売上高 推移 (億円)



(±%) 表記は、前年比

\* 補足資料に地域別の概況を掲載

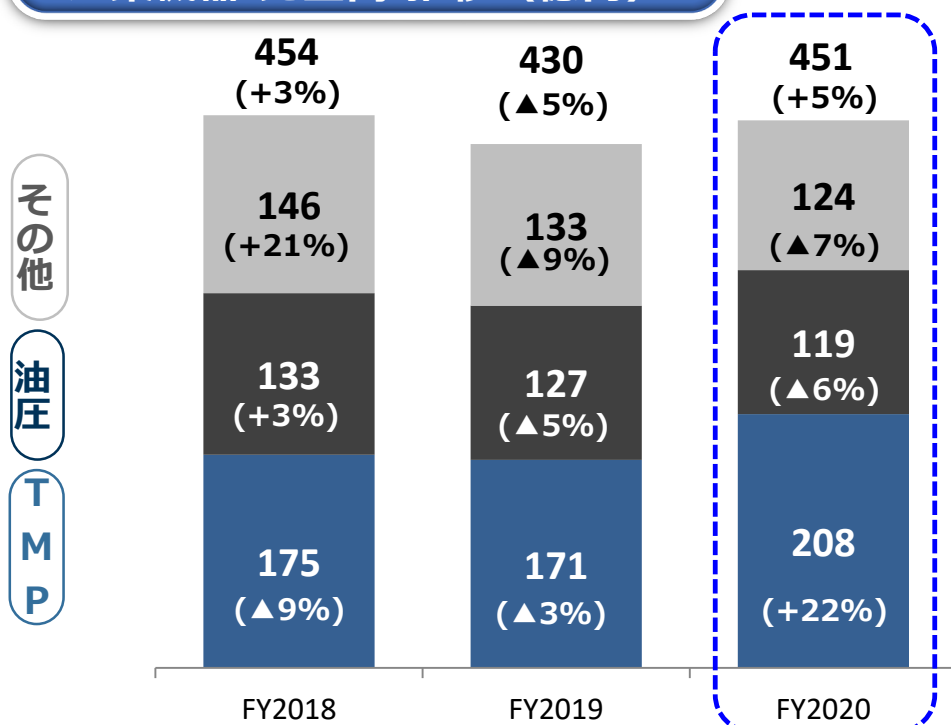
## 医用機器製品

その他	<p>病院受付システム MERSYS-IV (感染症パッケージ)</p>	<p>近赤外光カメラシステム LIGHTVISION</p>	<p>マンモPETシステム Elmammo Avant Class</p>	<p>TOF-PET装置 BresTome</p>
	X線撮影装置	<p>回診用装置 MobileDaRt Evolution</p>	<p>一般撮影システム RADspeed Pro</p>	<p>X線TVシステム SONIALVISION G4</p>

# 産業機器 / 機種別売上高

- ・ **TMP** : 208億円(前年比:+38億円、+22%) 半導体製造装置向けを中心に好調、過去最高売上を更新
- ・ **油圧** : 119億円(前年比:▲ 8億円、▲ 6%) 中国は増加したが、日本が設備投資減少影響により減収
- ・ **その他** : 124億円(前年比:▲ 9億円、▲ 7%) EV・水素関連で測定機器は伸長したが、工業炉が減収
- ・ **TMPアフターマーケット**: 38億円(前年比:+ 3億円、+ 8%) AM比率18% (前年比▲2pt)

産業機器 売上高 推移 (億円)



※ (±%) 表記は、前年比

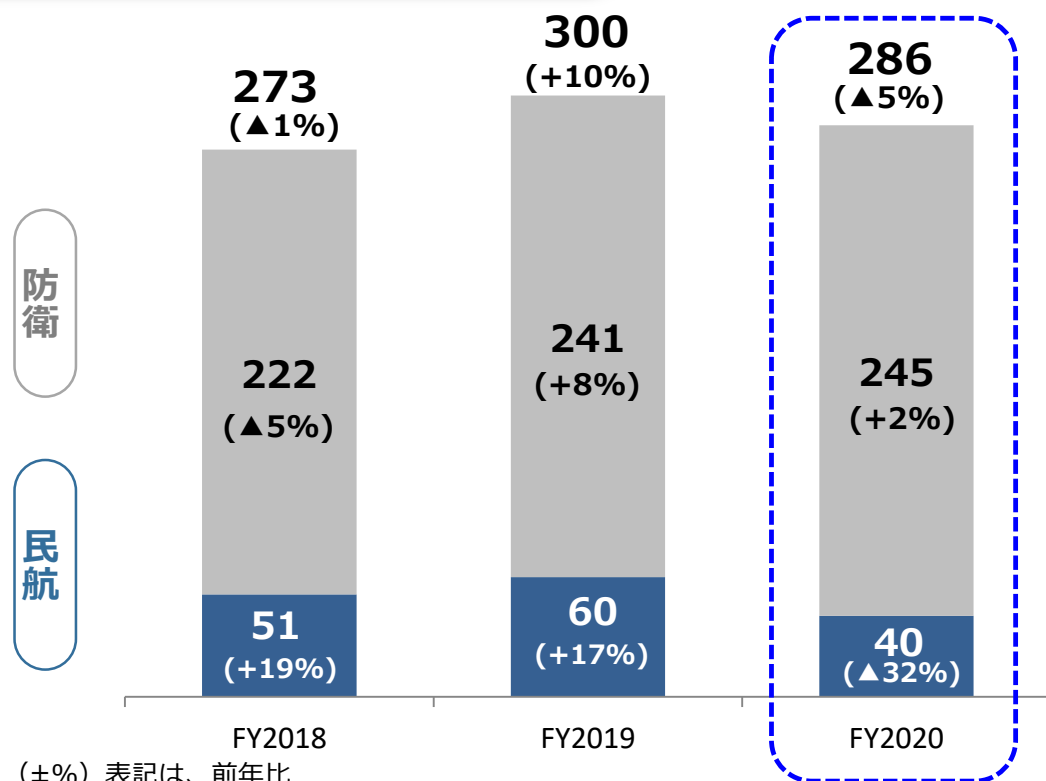
## 産業機器製品

その他					
	工業炉			ガラスワインダー	バランサー
TMP					
	電源一体型		電源別置き型		
油圧機器					
	ギアポンプ		コントロールバルブ		

# 航空機器/分野別売上高

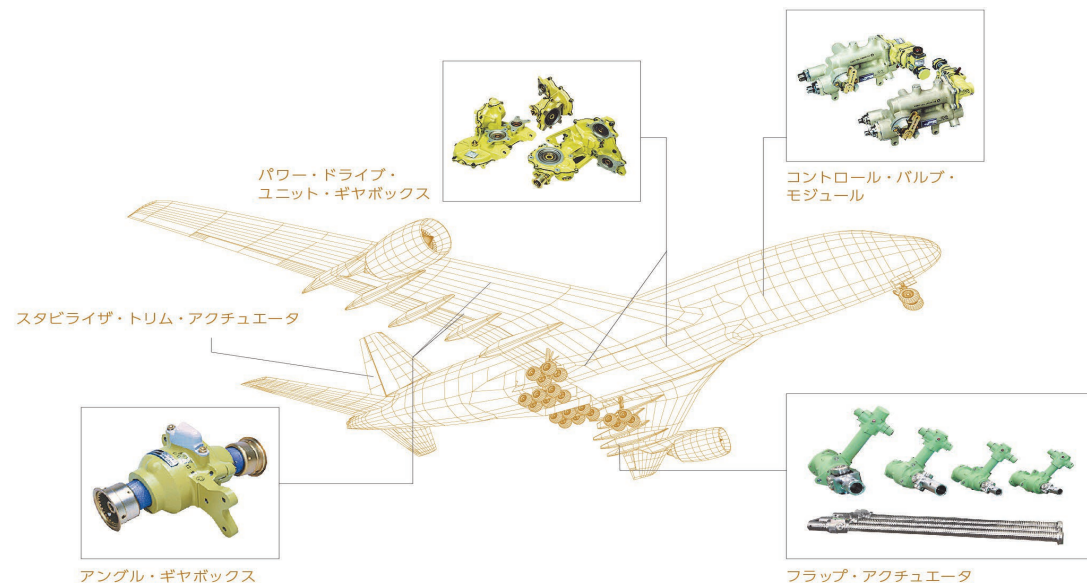
- ・**民航:** 40億円(前年比:▲20億円、▲32%)民間航空機の減産により、ボーイング向け搭載機器を中心に大きく減少
- ・**防衛:**245億円(前年比:+ 4億円、+2%)大口案件などで増収を確保

航空機器 売上高 推移 (億円)



※ (±%) 表記は、前年比

## 民間航空機向け製品



# 目次

- ① FY2020通期決算 概要
- ② FY2020通期決算 セグメント別業績
- ③ **FY2021 予想**

# 事業環境の見通し

- ・ 新型コロナウイルス感染症関連は変異株の陽性診断及び陰性証明検査の需要が継続
- ・ コロナ禍で伸びる市場が二極化。伸びる市場に注力
- ・ 計測・医用は回復、産業は需要拡大が見込まれる。航空は厳しい環境が継続

事業	分野	概況		
		プラス要因	マイナス要因	
計測	ヘルスケア	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 変異株の陽性診断及び新型コロナウイルス陰性証明検査需要の増加</li> <li>■ 医薬の自国生産回帰の流れは継続</li> <li>■ 食品安全分野の需要拡大</li> </ul>	-
	官庁・大学	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ヘルスケア、環境／エネルギー、半導体分野向けの研究拡大</li> </ul>	■ 感染拡大によるキャンパス閉鎖、官庁入札延期
	製造業	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動車分野などで投資回復</li> <li>■ カーボン・ニュートラル推進による環境／エネルギー対応需要増加</li> </ul>	■ 航空機は厳しい事業環境が継続
医用	公立病院	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 補正予算による需要増</li> <li>■ コロナ禍で延期されていた設備投資の一部再開</li> </ul>	■ 回診車需要は一巡
	民間病院	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コロナ禍で延期されていた設備投資の一部再開</li> </ul>	■ 回診車需要は一巡
産業	半導体	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ データセンターや5G向け需要拡大により半導体需要大幅増</li> </ul>	-
	油圧	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 産業車両・小型建機の需要は回復基調</li> </ul>	-
	その他	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設備投資増に伴い回復傾向</li> </ul>	-
航空	民間航空機	×	-	■ 民間航空機の減産が継続し、厳しい環境が継続

# 通期業績予想

- ・ 好調なヘルスケア・半導体市場向けの事業を拡大
- ・ 前年の特需及び収益認識基準の剥落分を補い増収増益を確保
- ・ 売上高・営業利益・経常利益・当期純利益すべてで2期連続の過去最高業績更新を目指す

	単位：億円	通期		前年比	
		FY2021	FY2020	差額	増減率
業績	売上高	4,000	3,935	+65	+2%
	営業利益	500	497	+3	+1%
	営業利益率	12.5%	12.6%	▲0.1pt	-
	経常利益	490	484	+6	+1%
	親会社株主に帰属する当期純利益	370	361	+9	+3%
為替	平均レート：米ドル（円）	105.0	106.1	▲1.1	▲1%
	ユーロ（円）	120.0	123.8	▲3.8	▲3%
主要投資	研究開発費	185	157	+28	
	設備投資額	160	145	+15	
	減価償却費	165	155	+10	

### 通期為替影響額

売上高 : ▲26億円  
 営業利益 : ▲ 9億円

# 通期セグメント別業績予想

- ・計測：増収増益 ■ 感染症対策、医薬・食品安全などのヘルスケア、カーボン・ニュートラル推進による環境・エネルギー市場など、需要増が見込まれる市場への取り組みを加速。研究開発費増などを増収でカバーし増益
- ・医用：増収減益 ■ 回診車需要は減少するが、X線TV・血管撮影装置の拡販を図る。研究開発増などにより減益
- ・産業：増収増益 ■ 5Gやデータセンター需要拡大で半導体製造装置向けTMP増加。設備投資増で油圧、工業炉なども増加
- ・航空：減収増益 ■ 民間航空を中心に厳しい市況が継続するが、不採算製品削減・固定費削減などで黒字確保

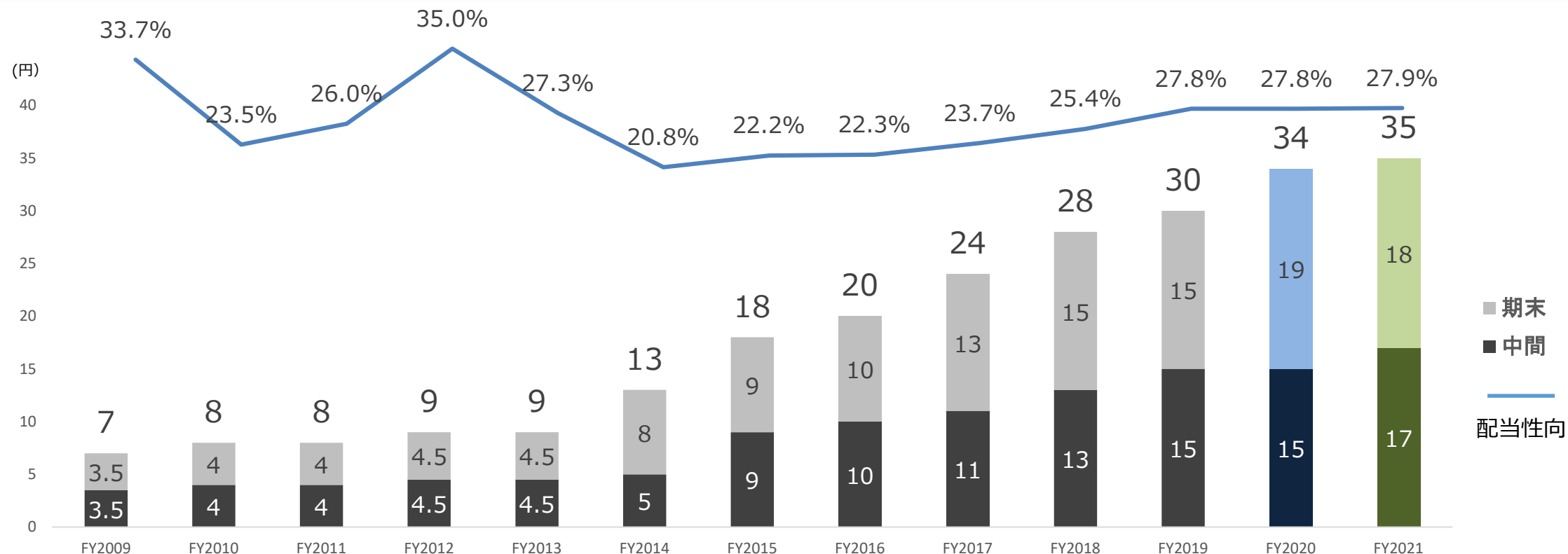
単位: 億円	売上				営業利益				営業利益率		
	FY2021	FY2020	前期比		FY2021	FY2020	前期比		FY2021	FY2020	前期比
			差額	増減率			差額	増減率			増減
計測	2,550	2,486	+65	+3%	430	425	+5	+1%	16.9%	17.1%	▲0.2pt
医用	670	669	+1	+0%	40	44	▲4	▲8%	6.0%	6.5%	▲0.6pt
産業	505	452	+53	+12%	50	41	+9	+21%	9.9%	9.1%	+0.8pt
航空	230	286	▲56	▲19%	2	1	+1	+199%	0.9%	0.2%	+0.6pt
その他	45	44	+1	+2%	7	10	▲3	▲29%	10.4%	16.2%	▲5.8pt
調整額					▲29	▲23	▲6	-			
合計	4,000	3,935	+65	+2%	500	497	+3	+1%	12.5%	12.6%	▲0.1pt

\* 売上は外部売上 営業利益率は営業利益/ (外部+内部) で算出



# 株主還元

- ・方針：研究開発など成長に向けた積極的投資とステークホルダーへの着実な還元を実施
- ・配当：FY2020 中間15円、期末19円 年34円 予想より4円増配  
FY2021 中間17円、期末18円 年35円 8期連続増配予定



\* FY2020は定時株主総会決議後に確定 FY2021は予定



 **SHIMADZU**  
Excellence in Science

本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

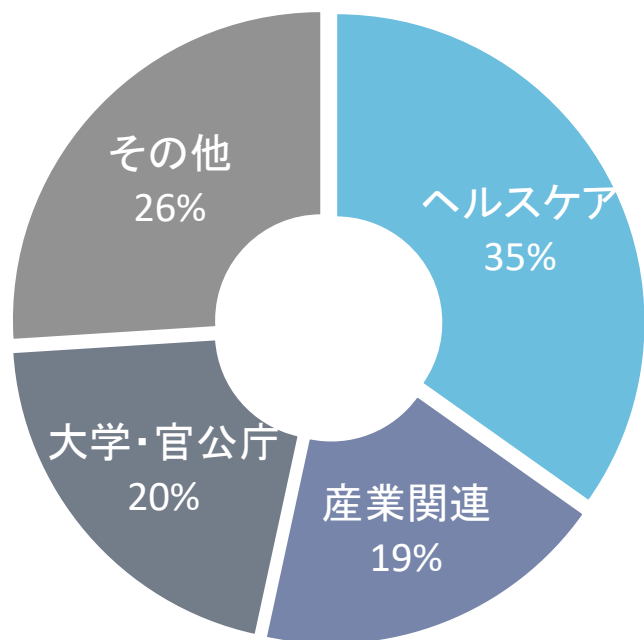
お問い合わせ先：(株)島津製作所  
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ  
電話：075-823-1673 E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

# 補足資料

# 計測機器/市場別売上高比率（通期）

- ・ヘルスケア : 新型コロナウイルス検出試薬キットの増加。製薬向け堅調
- ・産業関連 : 中国市場の回復継続。自動車は厳しい状況が継続
- ・大学・官公庁 : 日本は下期に補正予算の需要を取り込む。中国は大学・官公庁市場回復

市場別売上構成比



市場と主な業界	前年比	概況
<b>ヘルスケア</b> ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析業	<b>+16%</b>	・新型コロナウイルス検査試薬キットや全自動PCR検査装置が貢献 ・医薬の自国生産回帰がグローバルで進み、医薬向けが好調に推移 ・中国の薬典改訂需要が業績に貢献
<b>産業関連</b> ●化学・素材 ●電機 ●自動車	<b>▲4%</b>	・中国は回復が継続 ・鉄鋼、機械向けで減少 ・特に自動車向けが大幅に減少
<b>大学・官公庁</b>	<b>+7%</b>	・日本では補正予算需要により、下期業績が回復 ・中国ではキャンパス再開により、大学向けが増加 ・その他アジアはコロナ対策に予算が重点的に配分されたことなどにより、官公庁向けが減少

# 医用機器/地域別売上高（通期）

- ・日本 : ▲ 14% 新型コロナウイルス感染症影響で医療機関の収益が悪化し、設備投資が遅延・凍結
- ・海外 : + 11% 回診用X線撮影装置が海外主要地域で増加
- ・海外売上高比率 : 45% (前同比 +6pt)

億円	FY2020	FY2019	増減額	増減率	概況
日本	369	431	▲61	▲14%	・新型コロナウイルス感染症影響による、医療機関の収益悪化影響
海外	300	271	+29	+11%	・肺炎診断用に回診用X線撮影装置が海外主要地域で増加
北米	83	73	+10	+14%	・肺炎診断用に回診用X線撮影装置が増加 ・2019年1月に買収した販社CMI社の合併効果
欧州	48	37	+11	+29%	・肺炎診断用に回診用X線撮影装置が増加 ・東欧で一般撮影システムが増加
中国	52	52	+1	+1%	・高付加価値製品の拡販推進・政府支援による設備投資回復でX線TVが増加
その他 アジア	60	52	+8	+15%	・肺炎診断用に回診用X線撮影装置が増加

# 損益計算書（1-3月）

	単位：億円	4Q		前同比	
		FY2020	FY2019	差額	増減率
業績	売上高	1,174	1,063	+111	+10%
	営業利益	170	139	+31	+23%
	営業利益率	14.5%	13.1%	+1.4pt	-
	経常利益	159	139	+20	+14%
	親会社株主に帰属する当期純利益	125	104	+21	+20%
為替	平均レート：米ドル（円）	105.9	109.0	▲3.0	▲2.8%
	ユーロ（円）	127.8	120.1	+7.6	+6.4%
主要投資	研究開発費	49	48	+1	
	設備投資額	39	58	▲18	
	減価償却費	40	34	+6	

### 為替影響

売上高 : ▲3億円  
 営業利益 : ▲1億円

### 為替感応度

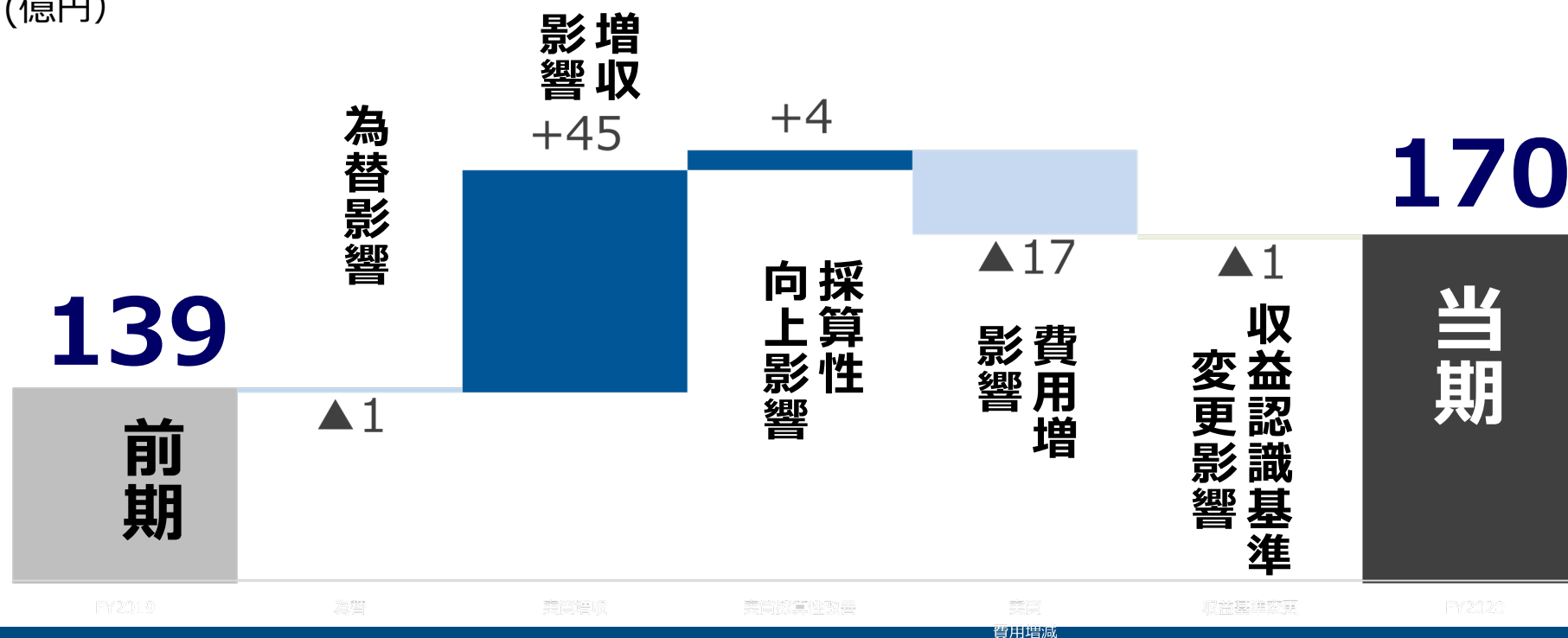
	売上高	営業利益
USD	12億円	4億円
EUR	2億円	0.7億円

〈会計基準変更による影響〉  
 1) 売上基準を出荷基準から据付完了基準に変更影響額：売上高+7億円、営業利益：▲1億円  
 2) リース基準の変更（賃借料→減価償却費）  
 影響額：減価償却費 +3億円

# 営業利益増減要因(1-3月)

- ・ 為替影響 : ▲ 1億円 (前年比、米ドルは3%円高、ユーロは6%円安)
- ・ 増収影響 : +45億円
- ・ 採算性向上 : + 4億円 (セグメントミックスの改善による採算性向上)
- ・ 費用増 : ▲ 17億円 (賞与引当金増など人件費増加)
- ・ 収益認識基準変更 : ▲ 1億円

(億円)



# セグメント別損益（1-3月）

単位: 億円	売上				営業利益				営業利益率		
	FY2020	FY2019	前同比		FY2020	FY2019	前同比		FY2020	FY2019	前同比 増減
			差額	増減率			差額	増減率			
計測	760	637	+122	+19%	144	106	+38	+36%	19.0%	16.7%	+2.4pt
医用	205	199	+7	+3%	24	19	+5	+24%	11.5%	9.6%	+1.9pt
産業	129	128	+1	+1%	13	15	▲3	▲17%	9.9%	12.0%	▲2.1pt
航空	66	88	▲22	▲25%	▲3	4	▲7	-	▲4.5%	4.2%	▲8.6pt
その他	15	12	+4	+31%	4	4	+1	+19%	28.8%	31.8%	▲3.0pt
調整額					▲12	▲9	▲2	-			
合計	1,174	1,063	+111	+10%	170	139	+31	+23%	14.5%	13.1%	+1.5pt

\* 売上は外部売上 営業利益率は営業利益/（外部+内部）で算出



# 計測機器/重点機種前同比

	FY2018					FY2019					FY2020				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
重点機種	+4%	+0%	+8%	+2%	+3%	+5%	+7%	+5%	▲10%	▲1%	▲5%	+2%	+11%	<b>+22%</b>	+8%
全体	+12%	+3%	+3%	+2%	+6%	▲4%	+10%	+4%	▲11%	+1%	▲7%	▲4%	+10%	<b>+19%</b>	+5%

\*重点機種：液体クロマトグラフ（L C）、質量分析計（M S）、ガスクロマトグラフ（G C）

\* FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較

# 計測機器/地域別売上高前同比

国	FY2018					FY2019					FY2020				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	+15%	▲1%	▲4%	▲1%	+1%	▲12%	+21%	+0%	▲5%	+1%	▲11%	▲15%	+15%	+11%	+1%
北米	+17%	+14%	+9%	+3%	+10%	+4%	▲5%	+16%	+4%	+5%	▲4%	+13%	▲8%	+5%	+1%
欧州	+11%	+7%	+19%	+8%	+12%	+1%	+19%	+2%	▲2%	+5%	▲5%	▲5%	+5%	+11%	+2%
中国	+10%	+6%	+3%	+9%	+7%	▲8%	▲4%	+4%	▲40%	▲12%	+12%	+14%	+18%	+74%	+25%
その他アジア	▲2%	▲1%	+13%	▲2%	+4%	+19%	+11%	+8%	▲10%	+6%	▲25%	▲9%	+5%	+25%	▲2%
インド	+6%	▲7%	+4%	▲9%	▲3%	+11%	▲3%	+27%	▲5%	+7%	▲35%	▲4%	+4%	+22%	▲3%

\* インドはその他アジアの内数

\* FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較

# 医用機器/地域別売上高前同比

国	FY2018					FY2019					FY2020				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	▲1%	+16%	+19%	+6%	+10%	+6%	+30%	▲2%	▲5%	+7%	▲15%	▲33%	▲1%	+7%	▲12%
北米	+17%	▲3%	▲33%	▲24%	▲12%	▲24%	▲17%	+5%	+7%	▲9%	+14%	+29%	+26%	+1%	+16%
欧州	+190%	+31%	+22%	▲1%	+34%	▲26%	▲6%	+2%	▲8%	▲9%	+19%	+30%	+51%	▲3%	+27%
中国	+1%	▲14%	▲5%	▲15%	▲9%	▲33%	+5%	▲26%	+13%	▲8%	+34%	▲33%	+29%	▲25%	▲7%
その他アジア	+11%	▲2%	+45%	▲28%	+6%	▲8%	+3%	▲16%	+34%	▲0%	▲9%	+17%	▲4%	+20%	+6%

\* FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較

# 産業機器/機種別売上高前同比

	FY2018					FY2019					FY2020				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
<b>TMP</b>	+14%	+0%	▲15%	▲29%	▲9%	▲25%	▲26%	+10%	+48%	▲1%	+46%	+36%	+7%	+9%	+21%
<b>油圧</b>	+6%	+1%	+4%	+1%	+3%	+2%	+1%	▲12%	▲5%	▲4%	▲19%	▲17%	+7%	+6%	▲6%
<b>その他</b>	+92%	▲9%	▲1%	+36%	+21%	▲37%	+19%	▲11%	▲1%	▲8%	▲7%	▲20%	+14%	▲16%	▲8%

\* FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較

# アフターマーケット(AM)比率

## 計測

	FY2018					FY2019					FY2020				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
AM売上前同比	+18%	+14%	+15%	+11%	+14%	+3%	+6%	+10%	▲2%	+4%	+1%	+4%	+12%	+22%	+10%
AM比率	31%	31%	31%	29%	30%	34%	30%	33%	32%	32%	37%	33%	34%	33%	34%

## 医用

	FY2018					FY2019					FY2020				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
AM売上前同比	+4%	▲2%	+5%	+2%	+2%	+5%	+13%	▲3%	+2%	+4%	+1%	▲8%	+14%	+5%	+3%
AM比率	32%	29%	30%	29%	30%	35%	28%	31%	30%	30%	37%	32%	32%	31%	33%

## TMP

	FY2018					FY2019					FY2020				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
AM売上前同比	+49%	+31%	+26%	+19%	+29%	+13%	+9%	▲1%	+12%	+8%	+12%	+3%	+11%	+6%	+8%
AM比率	14%	18%	20%	24%	19%	22%	27%	18%	18%	21%	17%	21%	19%	18%	19%

\* FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較